

# 私のテニス人生

藤田 稔

生来、いろいろなスポーツに親しんできたが、私にとってテニスほど素晴らしい、楽しいスポーツはなかった。青空の下、広いコートで白球を追いかけるとき、無上の喜びを覚える。それはなんと表現して良いかわからない。無我の境地と言うべきか、ボールを打つ瞬間、頭の中にはなにもない。ただ全身全霊をこめて一球入魂で打つだけである。ボールはまるで私の分身のように相手のコートに飛んで行く。

テニスというスポーツはとくに人と人とのふれあい、コミュニケーションがあると思う。

テニスの試合は笑顔の挨拶で始まり勝つても負けても笑顔の握手で終わる。相手のナイスプレーを讃えつつ、ナイスショットはいつまでも記憶に残り、夕方のビールの肴になる。

中学一年の時、生まれて初めてラケットをにぎった。当時は軟式でラケットもボールも粗末なものであったが、たちまちテニスの魅力にとりつかれ、毎日放課後、おそくまで練習と下手な試合に明け暮れた。テニス狂の英語の先生がいて基礎をしっかりと教えてくださったのが良く、私は見る見る上達して中学の正選手に選ばれ対外試合ではいつもポイントゲッターとなった。軟式テニスは試合が4ゲームしか無いので、油断しているとあっという間に負けてしまう。一球一ポイントたりともおろそかに出来ないのである。

軟式テニスは新居浜中学、松山高等学校、大阪大学と10年行ったが、これで得られたものは、フォアドライブの完成と、1球1球大切に打ち、1球たりとも絶対ミスをしないうという強靱な精神力と技術の追求であった。

大学を出て入社した(1953)昭和石油は硬式テニスが盛んで社会人テニス大会で団体優勝するほどレベルが高かった。また試合ぶりもいかにも優雅でかつ華麗なので私はたちまち硬式テニスのとりこになり、軟式から硬式に転向した。

軟式テニスのグリップで硬式ラケットをにぎるとフォアドライブのとき手首を痛めやすく、バックハンドは大変打ちにくい。硬式テニスではふつう薄く握って両面を使う。私は私なりに硬式ラケットのグリップを工夫して軟式テニスの時のようなドライブボールを打つ練習をしてほぼ完成させた。

昭和石油時代にはダブルスに絶好の伴侶、橋爪君を得た事が私にとって幸運であった。橋爪君は同じ中央研究所の同僚で、いつも物静かなスポーツマンであり、前衛での彼のバックボレーは特に鮮やかで印象的であった。橋爪君とは15年くらいダブルスで組んでいたが、一番の思い出は全日本インターオイル選手権戦で、ベテラン部門のダブルスで二年連続優勝をしたことであった。これは1970年6月13日土曜日の日刊石油タイムズおよび1971年6月14日月曜日の日刊石油タイムズに写真入りで報道され、いわば私の若き日の栄光のときであった。

テニス仲間と言うのは真に心の底から打ち解けて話せるし、全くくったくの無いグルー

プであろう。山中湖や河口湖に何回と無くテニス合宿に出かけたが、思う存分テニスをしたあとのビール的美味しさや赤々と燃えるキャンプファイアーの光を生涯忘れることは無い。

テニスで体得した努力、技術、根性、友愛、協調の精神は尊い。それはまた仕事の面にも反映しないではいられない。テニスの上達につれて私の研究も大いに成果が上がってきたのであった。

昭和石油(株)、昭和シェル石油(株)の中央研究所に約35年間在職した。思い出に残るイベントは研究所3社(日本石油、三菱石油、昭和シェル石油)対抗テニス試合のことである。1956年春から始まり、1992年秋には第40回大会を迎えた。第1回から第40回まで出場しているのは、日本石油の森田さんと私の2名だけであり自慢の一つである。本来は競争会社である石油会社の研究所のテニス愛好者が35年以上にもわたって、毎年秋には和気あいあいとテニスを楽しんでいることは驚嘆に値することであろう。商売を離れたスポーツマンシップと友情のあることを特筆大書しておきたい。

昭和シェル石油を定年退職(1990年)したあともテニスへの情熱は衰える事無くむしろ燃え上がった。全国旧制高等学校 OB テニスインターハイが1972より朝日生命久我山コートで毎年行われていることをしった。先輩にお電話すると近くのコートにすぐ来いと言われテニス技術を評価され、選手として出場するようにいわれた。1校3ダブルスのトーナメントで全国35校から200名以上集合する。夏の暑い日に1日かけて何試合も行き優勝を決めるのである。今から思うと良く熱中症でたおれなかったものだと思う。私の所属する松山高等学校は伝統的に強豪で1972年第1回大会から1992年第20回大会までなんと12回優勝した。私は松高1年後輩の仲田君とダブルスを組みいつも全勝で貢献した。旧制松山高等学校のテニス部創立以来の成績や写真を残そうということので1993年に「若葉の古城」350ページを発刊した。幸い好評であった。

松高庭球部賛歌 作詞 藤田 稔 作曲 紺田 功

- 1, 勝山城東風さやか 自由の息吹き満ち渡る テニスコートにわれ立てば  
血潮はたぎるふつふつと ああ思い出のインターハイ ああ青春の松高庭球部
- 2, 石手の流れ水清く せせらぎの音に啓示あり ボレー スマッシュ ストローク  
心の通う球と汗 ああうるわしきインターハイ ああ友情の松高庭球部
- 3, 白球おいて幾十年 永遠に変らぬ師弟愛 ファイト松高スピリッツ  
勝利の盃重ねつつ ああ悠久のインターハイ ああ栄光の松高庭球部

2024年7月20日

石油分析化学研究所 研究所長  
工学博士(大阪大学) 技術士(化学)  
藤田 稔